

他科との境界領域では、担当医師の専門領域、経験値、考え方など、個性が発揮される場面も多いのではないのでしょうか。また、多職種・他科との連携が必要な場合も多いため、連絡の行き違い、判断の遅れなどのリスクも高まるかも知れません。地域医療の実情も医師の判断に影響するでしょう。どこまで経過を観察、どこから専門家に紹介、いつごろ外科系に相談、難しい判断に悩まれることもあるかと思います。

今月号の特集は耳鼻咽喉科との“境界領域”を意識して企画されました。また「最近の外国業績より」でも、今回は境界領域をテーマに文獻を紹介していただきました。

喉頭軟化症は小児で喘鳴をきたす代表的な疾患です。小児科医が経過をみることが多い一方、レーザー治療を含めた外科的介入も積極的に考慮されるようになりました。新生児期の保存治療と積極治療の境界領域という視点から概説をお願いしました。

扁桃炎による繰り返す発熱や扁桃肥大では、扁桃摘出の適応について耳鼻咽喉科に相談するべきか思案されることもあると思います。学校健診で気付かれた場合、その後の対応に迷うこともあるでしょう。保健と医療の境界領域という視点からも重要な病態です。

長引く呼吸器症状の原因として副鼻腔炎もよく遭遇する病態です。頭蓋内感染など重篤な合併症のリスクもありますが、安易な抗菌薬治療は控えるべきです。耳鼻科への紹介のタイミングにおいて、小児科医の判断には個人差があるようです。小児科と耳鼻咽喉科の境界領域という視点で代表的な疾患です。

急性の嚥下障害を主徴とする急性喉頭蓋炎、扁桃周囲・咽後膿瘍、気道異物などは緊急性が高く、耳鼻科医との速やかな連携が必須です。乳児期の嘔声では気道緊急のリスクがあり、手術適応のある病態も存在します。鑑別診断、治療方針決定において高度な判断が必要とされる高リスクな境界領域という視点で、これら2件のトピックスを採り上げました。

全身に目を配り、多職種・他科との連携を通じて包括的な小児医療を提供するためには、周辺領域の診療技術を高めること、すなわち“外堀を埋める”ことが大切です。境界領域を見直すことで小児医療の外堀を埋める。そこで見えてくる小児科医の使命を実感していただければ幸いです。

(高橋 孝雄)

編集：中西敏雄・岡部信彦・清水直樹・高橋孝雄（ABC 順）

小児科

第67巻 第3号 3月号
2026年3月1日発行（毎月1回1日発行）
定価 3,410 円（本体 3,100 円＋税 10%）
年間購読料金
定価 50,820 円（本体 46,200 円＋税 10%）
〔年間 13 冊（臨時増刊号を含む）の誌代〕
〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発行所 金原出版株式会社
発行者 前田 達也
〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14
Tel 03-3811-7165〔雑誌部直通〕
Tel 03-3811-7184〔営業部直通〕
Fax 03-3813-0288
www.kanehara-shuppan.co.jp
印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03-3637-0005
広告申込先 株式会社文京メディカル Tel 03-3817-8036

- ・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。
- ・教育機関、医療機関、企業などにおいて本誌を無断で複製すること（コピー、スキャン、デジタルデータ化など）は「私的使用」など著作権法上の限られた例外にはあらず、違法となります。また、限られた例外に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して複製を行うことは違法となります。
- ・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>
本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。
- ・本誌を AI（人工知能）分野に関する用途で許諾を得ずに利用する行為は、当社の利益を不当に侵害する可能性があります。必ず事前に当社までお問い合わせください。